

「現地を訪問して想うこと」

【匿名希望】

今般の東北応援ツアー福島県相馬コースでは、臨海地域における辺り一面の更地が広がる風景と僅かに残った震災遺構、そして主に山間地域における放射性物質を含む土壌等の除染後の大型土嚢が仮置きされている光景を目にすることができました。

そうした震災後の被災地としての風景は、インターネットをはじめとする様々な媒体を通じて耳目に触れていたものと同様であり、そうした光景が広がっていることを知ってはいましたが、実際に広範囲にわたって似た様子が広がっている光景から、実感としての被災地における被害の甚大さを幾ばくか認識することができたように思います。

ツアーを通して認識した被災地の現況は、先の震災における被害のごく限られた断片を掴んだものでしかないことを鑑みると、少ない情報から自分なりに被災地の復興について考えることは軽率な試みではないのかとの自戒の念もありますが、実際に被災地を目にして肌で感じたかぎりはそれでもやはりこれからの被災地の復興について考えずにはいられないものであることから、定まった解のない被災地の復興について、決して性急な結論や理想主義一辺倒に墮することなく、漸進的に問題を解決していく姿勢で検討を続けていきたいと思えます。